

はじめに

社会生活を営む上で人間関係は複雑である。スムーズな人間関係を構築するためにはそれなりの学習や思慮が要求される。相手がどこ出身で、どのような環境で育ち、どんな教育を受けたかなどの文化的背景を参考にその人をよりよく知ることによって、相手を理解することが必要である。生まれ育った文化の中でも性別、年齢、職業、社会的地位、地域、自然環境、歴史などによっても人が持っている文化は違うので、そのような点にも留意しなくてはならない。

ましてや自国以外においては、より幅広い複雑な異文化が存在するのでそれを認識することが大変重要になる。情報通信技術は日進月歩で発達し、世界と瞬時に交信することが可能である。さらにロジスティックの国際発展に従ってカネ、モノ、ヒト、サービスが自由に行き交う時代になった。外国から日本を訪れる人が3000万人にならんとする。2020年の東京オリンピックには4000万人の訪日客を目標にしている。日本から海外にも多くの人がでかけている。加えて、日本に住み、働いたり、学んだりする外国人が250万人と全人口の2%になり、外国人労働者が100万人を突破した。その結果、われわれの身近に異文化が存在し、それがわれわれの日常生活にも影響をおよぼしている。

今回の「異文化理解」については、外国の文化を念頭に日本文化との比較検証を試みる。その背景や重要性を把握し、異文化理解のためのコミュニケーションの手段や意義を精査し、その上で、後半はオーストラリアに焦点を当てて、日豪文化を掘り下げ比較検証をする。なぜオーストラリアかについては、これまでの拙著で何度も取り上げてきた。オーストラリアは過去、現在はもちろん日本の将来にも大きく関わり、その役割が大変重要である。だから、日本にとって死活的パートナーであるこの国をよりよく知ることが大切なのである。

日本の国民生活や産業にとって、オーストラリアがいかに重要であるかを具体的に示すと、まずオーストラリアは日本にとって必要なエネルギー・鉱物資源、食料資源の主要な供給国である。発電用・都市ガス用のエネルギー資源である一般炭の70%、天然ガスの40%以上をオーストラリアに依存している。日頃われわれが食べているうどんや中華麺、その原料になる小麦をはじめオージービーフ、市販されているプロセス・チーズの原料もオーストラリアから輸入されたナチュラル・チーズが使用されている。ビール・ウイスキーの原料は大麦、麦芽（モルト）でオーストラリアからの輸入に依存している。さらに、アワビ、クルマエビ、ミナミマグロなどの水産物、食用油のキャノーラから食生活や食品加工に欠かせない砂糖や塩にいたるまで、オーストラリアから輸入されている。

鉄道、航空機、道路、橋梁、自動車、機械、電化製品、光学器械、精密機械などに多用されている鉄の原料である鉄鉱石と原料炭や金、銀、銅、ニッケル、アルミニウム、亜鉛、スズなどの非鉄金属に加えて、ガラスの主原料の珪砂（シリカサンド）、紙の原料の木材チップなどなど、経済活動、日常生活に不可欠な製品の原料が、大量にオーストラリアから輸入されている。このような原料がなければ、日本の代表的な輸出品である車を一台も作ることはできない。

またオーストラリアの希少金属（レアメタル）は、140兆円といわれる日本のハイテク産業を支えている。携帯電話、パソコン、電子機器などは多種種類のレアメタルが使われている。その多くがオーストラリアから輸入されている。日本の需要は世界全体の25%を占め、オーストラリアの資源がなければこの重要なハイテク産業は存在できない。

オーストラリアは、アジアの時代におけるこの地域での平和と安全に不可欠な準同盟国である。混迷を深める北朝鮮問題、軍拡が進む中国など、わが国の安全を脅かす現況に対処するためには日米同盟に加え、オーストラリアとの協力関係を強化しなければならない。

日本では残念ながらオーストラリアについての知識が大変限定的で、一般的にはコアラや羊、大自然と資源の域をあまりでない認識である。そこで本書では、読者の認識を深めるために、オーストラリアの国民性、価値観を基軸に政治、経済、法律、国民生活、慣習、マナー、行動規範、教育、言語、動植物やビジネス文化などさまざまな文化情報を提供

している。さらに急速に進化している多民族・多文化国家としての現状と将来を検証する。少子高齢化、人口減少、人手不足で海外から労働力を確保しなければ、国の経済を維持できない深刻な状況に直面している日本にとって、これから避けてとおれない多文化共生時代を迎える際の参考になれば幸いだと思っている。そして本書が、親密な日豪関係のさらなる構築と発展に役立てばなおよいと考えている。

2019年6月 吉日

著者

異文化理解とオーストラリアの多文化主義

目次

はじめに..... *i*

第一章 異文化理解の重要性..... *1*

1 避けられないグローバルイズム *3*

2 日常化する海外進出 *8*

3 増加する外国人労働者 *11*

第二章 異文化コミュニケーション..... *21*

1 言語的コミュニケーションの限界 *22*

2 非言語コミュニケーションの役割と誤解 *31*

3 自文化と他文化問答 *47*

4 ステレオタイプの落とし穴 *51*

第三章 オーストラリアの国民性、価値観..... *56*

1 日豪国民性比較 *57*

2 神や労働に対する考え *63*

3 罪と恥の文化 *65*

4 自由・平等、社会的公正 *66*

5 メイトシップ（仲間意識） *72*

6 寛容 *74*

4	太古の植物	180
3	怖い海の生き物たち	178
2	珍しい有袋類の仲間	172
1	生きた化石 卵を産む哺乳類	170
第五章 オーストラリアの動植物 ……………		
10	三都物語	165
9	言葉	161
8	しつけと教育	153
7	行動様式	149
6	マナー・慣習	144
5	社会生活	122
4	国民生活	99
3	経済概論	93
2	国体・憲法・法律	89
1	自然環境・地理	87
第四章 オーストラリアの文化情報 ……………		
8	個人主義 対 集団主義	81
7	判官びいき、トール・ポピー症候群	76
……………		
		86

5	崩れる生態系	183
	第六章 オーストラリアのビジネス文化	188
1	企業風土の違い	188
2	就活と労働条件	193
3	職場の人間関係	199
4	ビジネスのオーグースタイル	202
	第七章 オーストラリアの多文化主義の行方	207
1	先住民族とその将来	208
2	進む多民族多文化	212
3	人種偏見と差別	217
4	共生社会へかじ取り	223
	おわりに	235
	参考文献・資料	237